

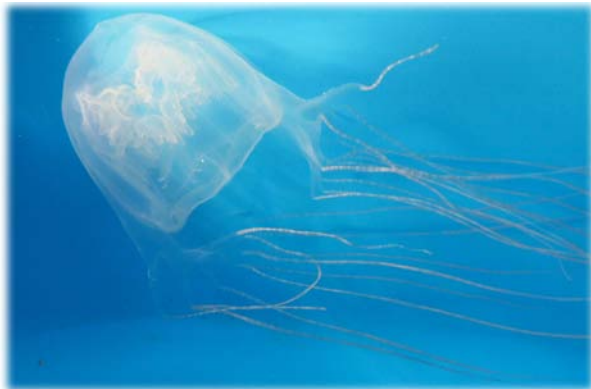


Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●慶良間の海へあぶない訪問者

ーハブクラゲー

まだまだ暑いとはいえ、9月になってずいぶんと日の光は弱くなりました。それでも、海の水はまだ27~28℃ほどあるので、もうしばらくは海水浴もできるでしょう。内地では、よく「お盆を過ぎるとクラゲが出るから海で泳がない方がいい」と言って、8月半ば以降はあまり海で泳がなくなります。この“クラゲ”の正体はアンドンクラゲという透明なクラゲで、強い毒をもっています。けれども、沖縄にはもっと強い毒をもったクラゲがいます。今回は、そのハブクラゲの話をしていきましょう。

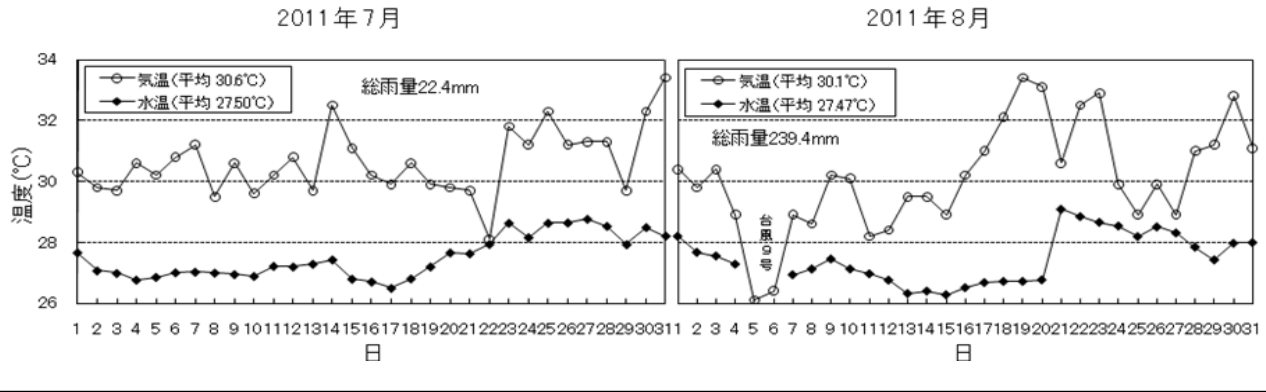
ハブクラゲは、沖縄では特別に危険な海の生き物の1つで、沖縄県環境衛生研究所の調べでは、2010年に沖縄県内でハブクラゲに刺される事故が151件もあったそうです。その中には、呼吸が止まるという大きな事故も含まれており、また、過去には死亡者が出たこともありますから、日本では一番危険なクラゲと言って

よいと思います。

これまで、本島周辺や石垣島のまわりではたくさんのハブクラゲが出ていましたし、久米島などでも年によっては見つかっていましたが、慶良間からは発見の記録がありませんでした。ところが、困ったことに、今年慶良間でもこのハブクラゲが採集されたのです。

8月18日の夜、デンマークから研究所に来ていた研究者たちが「大きなクラゲをつかまえたよ」と言うので見てみると、ハブクラゲでした。この人たちはクラゲの研究グループで、阿嘉新港で別の種類のクラゲを探していて、たまたまハブクラゲを発見したのです。しばらく探してみたようですが、ハブクラゲは、その1匹以外は見当たらなかったそうです。採集したハブクラゲは、それからしばらくは研究所で飼育されていましたが、その後研究のために解剖されました。飼育中に見ていると、昼間でも触手を伸ばして活発に泳いでいましたが、夜にはさらに触手は長く伸び、エサとなる動物が引っかかるのを待っているようでした。大変危険な動物なので、「これはまずい」と思い、発見の翌日、役場などに連絡して注意を呼びかけましたが、8月24日には古座間味でハブクラゲらしいクラゲに刺される事故が起きてしまいました。このクラゲが本当にハブクラゲだったかどうか、はっきりはわかりませんが、タイミングを考えると、そうだった可能性は

定点観測



高いと思います。阿嘉新港で見つかったクラゲは、傘の広いところの直径が 10cm ほどで、もっとも成長した大きさです。ほかに小さなクラゲがたくさん見つからないことを考えると、たまたま成長したクラゲがどこからか流れてきたのだと思います。そう言えば、見つかったのは台風 9 号のしけの 10 日ほど後でした。台風の波で沿岸からはなされたクラゲが海流に乗って、慶良間にたどりついてしまったのかもしれませんが。幸いにも、その後ハブクラゲは見つかっていませんが、もうしばらくは、海に行く時には注意をしてください。

そして、もう 1 つ気にかかるのは、今度のハブクラゲが慶良間に卵を持って来はしなかったかということです。もしも卵を持って来ていたら、その子供（幼生）が慶良間に住みついて、‘毎年ハブクラゲが出る’ということになるかもしれません。今回の発見状況からみると、慶良間にやってきたクラゲの数は少なそうなので、オスとメスが出会うチャンスはかなり少なく、慶良間にハブクラゲが住みつく可能性は低そうですが、ゼロではありません。ハブクラゲが出現し始めるのは毎年初夏のようです。来年のそのころ、少し注意して海を見てみようと思います。

心配な事ばかり書きましたが、ハブクラゲは、生き物としてはとてもおもしろ

く、実はふつうのクラゲとは違う仲間で、特別に性能の良い目をもったクラゲです。この仲間を“箱クラゲ（箱虫）”といいます（ちなみにふつうのクラゲは、鉢クラゲ（鉢虫）といいます。また、冒頭のアンドンクラゲも箱クラゲの仲間です）。そして、慶良間には、もう 1 種類、もっと小さな箱クラゲがいます（実は、デンマークの研究者はこれを探しにやってきていました）。別の機会にぜひこのもう 1 つの種類を中心にその暮らしぶりや箱クラゲたちの特別製の目のことなどをお話したいと思います。

● 阿嘉島の海より

9 月 13 日、阿嘉島では海神祭が行われました。海神祭は、海での航海安全や大漁を祈願して行われるもので、数ある阿嘉島の行事の中でも大きな行事の一つです。海神祭当日は、島民が海班と山班とに分かれ、海班は神様にお供えする魚を捕りに行き、山班は海の神様を祀るお宮などの草刈りを行います。そして夕方になると、海で働くうみんちゅ(漁師)やダイビングショップのスタッフをはじめ、多くの島民がお宮に集まります。行事は島のノロとかみんちゅ(神人)と呼ばれる神様に仕える女性達によって進められ、みんな海を祈ります。今年はいにく途中で雨が降り始めたため、後半は総合センターに会場を移して行われました。